

# 北海道建設新聞



## 転圧管理システム紹介

帯広広尾自動車道中札内の現場

情報化施工見学会開く

建設  
開道  
帯広  
帯広

【帯広】帯広開建帯広道路事務所は19日、所管する帯広広尾自動車道中札内村東3線改良の現場で情報化施工見学会を開

いた。管内や釧根地方の建設業者、各開建職員ら約100人が参加。施工を担当している宮坂建設工業の河原崎直人現場代理人と、技術提供をする岩崎の担当者らが、GPSを用いた転圧管理システムを紹介した。

同開建では、2009年度から道横断自動車道や農業基盤整備など5現場で情報化施工を採用。この現場は施工者希望型による技術提案で、宮坂建設工業では初めての施工となる。

工事内容は帯広広尾自動車道中札内ICから更振動ローラーに搭載した専用機器について説明した

別IC間の本線整備。購入土で成形する路体盛り土(約6万8400立方メートル)の転圧に情報化施工を導入し、7月上旬に着手した。

GPSは、約3メートル離れた現場事務所に本局、11メートル級の土工用振動ローラーの運転席上部に移動局をそれぞれ設置。位置情報を無線で通信しながら精度の高い転圧管理をしている。

車載した専用モニターには、締め固め位置や転圧回数などが表示され、過転圧防止などオペレーター技術をサポート。現在は1日当たり約5時間稼働させていて、今月末までに完了させる。

この日は、約540平方メートルの範囲で3回転圧する作業を公開。帯広道路事務所職員と現場担当者らが、資料とパネルを使って説明した。

河原崎現場代理人は「専用機器の初期設定やデータの送受信などに不安があったが、ほぼ計画通り作業ができている。作業効率や品質管理などに大きな効果がある」と話していた。